

生きていく上で欠かすことができない「食」を未来につなぐ、私たちのまちな新規就農者や農業後継者などを紹介します。

## 霧島の農業をミライへ



 **東 宏侑**さん(24) 国分出身、国分在住。  
就農2年目。東農園代表。  
営農類型：施設・露地野菜 経営作目：果菜類(スイートコーン)、葉茎菜類(ネギ)、水稻  
営農面積：13a

「親の後は継ぐということ  
は責任が重いですね」と実感を入れて話す東宏侑さん(24)。高校卒業後3年勤めた会社を辞め、農業大学校を経ておとし就農しました。今年1月には経営主となり、国分上井でスイートコーンなどを生産しています。

「前の仕事も一生懸命やってきたつもりでしたが、どこか情熱が持てなくて。そんな折、祖母が亡くなり、近所の人たちから祖母が農業を頑張っていたと聞いて、自分も農業の道に進もうと思いました」と振り返ります。

忙しくてまだ先のことを考える余裕もないと笑う東さん。「スイートコーンは夜間に糖分を蓄えるため、収穫は午前2時に起床して日が昇るまでに終えます。水稻も作っているのですが、スイートコーンの収穫時期は田植えの準備も重なって大忙し。それでもお客さまのおいしかったという声を聞くとうれしくて、もっと頑張ろうという気になります。これからも新鮮でおいしい物をたくさんの方に届けたいです」

### 丹精込めて作られた初夏の味覚、2種類のスイートコーンの食べ比べも

東さんは現在、16棟のビニールハウスで2種類のスイートコーンを生産しています。一つは、黄色い粒の「ゴールドラッシュ」という品種で、粒皮が薄く甘いのが特徴。もう一つの「雪の妖精」は、その名のとおり粒が白くとても甘いため大人気の品種です。

東さんが丹精込めて作ったスイートコーンは、市内のAコープや山形屋、AZ、ハビネスなどで販売されるそうです。季節になると購入希望の問い合わせも多く収穫期も短いので、見かけたら迷わず購入することをお勧めします。

